

学生協働支援隊
事例集
2025

東広島市市民協働センター

西条地域 地域マップのデジタル化

西条住民自治協議会

実施期間：2024年11月～2025年5月

活動の背景・目的

西条地域は集合住宅や転入者が多く、地域のつながりが希薄である。自治会区域を明確化し、地域住民間の関係づくりや防災等に活用するため、自治会マップのデジタル化を行った。



実施内容・流れ

2024年10月から地域との相談を重ね、11～12月に自治会長と共に区域の線引きを実施。その後、学生が地図情報をデジタル化し、地域側と調整しながら修正を重ねた。2025年5月の総会で完成版を地域で提示。今後の地域活動に活用していく予定。

学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、自治会長の手書き地図をもとに自治会区域をデジタル化する作業を担当した。学生が得意とするデジタル地図作成ツールの操作を担い、配色や見やすさ使いやすさを意識しながらデータ入力を担った。自治会ごとの線引きの曖昧さや例外的な区域への対応に苦心しつつも、地域との調整を重ねながら、ていねいに作業に取り組んだ。

今後の展望・課題

地域住民の知識が地図に反映され、共有可能な資料となった。地域活動の基盤が整理され、今後の防災や見守り活動に活用できる成果が得られた。

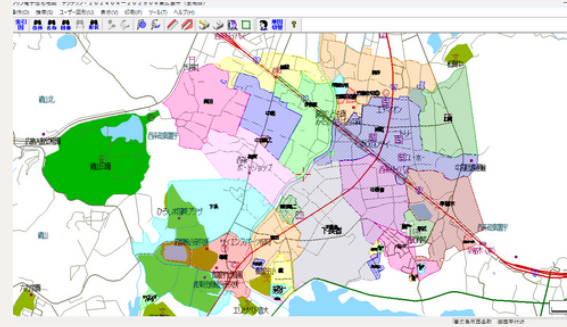
成果・効果

西条地域の自治会区域が可視化され、地域全体の理解が深まった。マップを通じた対話や情報共有の基盤が整い、今後の地域づくりの出発点となった。

御菌宇地域 地域マップのデジタル化

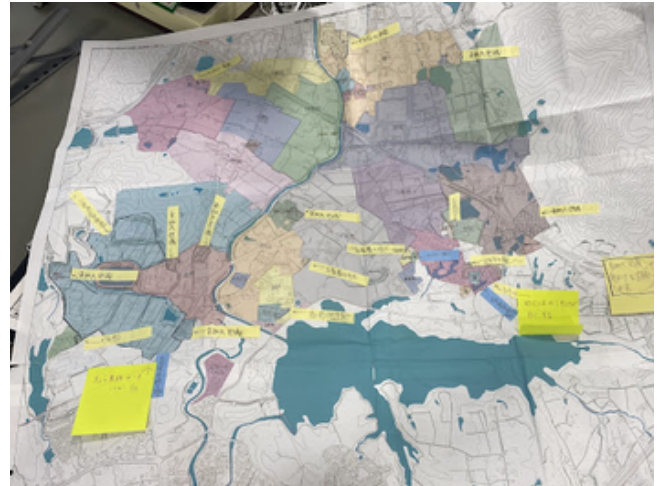
御菌宇小学校区住民自治協議会

実施期間：2025年6月～2025年12月



活動の背景・目的

地域内で紙媒体で作成していた区域図をデジタル化する取組を行う。地域の情報の確認や更新、共有がスムーズになり、引継ぎや災害時にも活用できる。



実施内容・流れ

5月にコーディネーターと今後の進め方を打合せた後、6月には学生協働支援隊が紙地図をもとに区域線をデジタル化する作業を行った。7月から9月にかけて御菌宇自治協の役員会で入力情報や修正内容を検討し、9月下旬に学生が修正箇所をデジタルデータに反映。10月以降は最終調整を行い、12月の役員会で完成版を確認。学生のデジタルスキルと地域の知見を生かした協働作業となった。

学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、地域の地図情報をデジタル化する役割を担った。紙の地図に記入された自治会ごとの線引きを基にデータ化を行い、地域住民が分かりやすく利用できるよう色分けなど工夫を加えた。また、住民と協力し、不足部分の確認や追加印刷を行いながら柔軟に対応した。地域になじみのない学生だからこそ、客観的に情報を整理でき、住民の知識を可視化することで今後の地域活動に役立つ資料づくりに貢献した。

今後の展望・課題

今後はデータ更新の仕組みを整え、地域で活用・修正できる形にする。継続的に地域と学生が協力し、活用方法を広げていきたい。

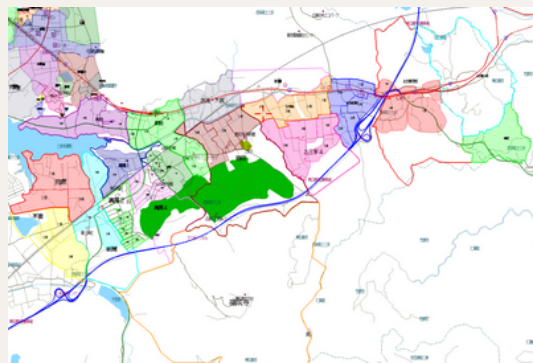
成果・効果

地域住民の知識が地図に反映され、共有可能な資料となった。これまで不確定であった自治会の未加入地域が可視化された。今後の防災や見守り活動に活用できる成果が得られた。

三永地域 地域マップのデジタル化

三永まちづくり協議会

実施期間：2025年10月～2025年2月



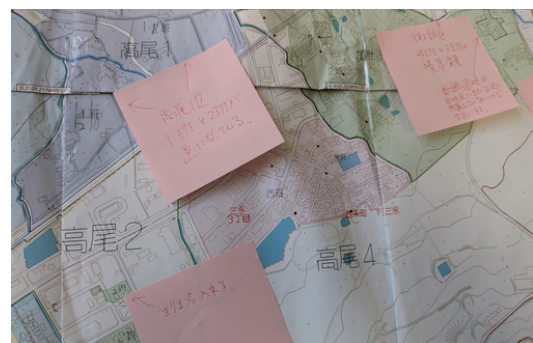
活動の背景・目的

三永地域では、役員交代時に自治会区域や班の範囲が分かりにくく、引継ぎが円滑に進まない課題があった。そこで2025年度は、学生協働支援隊と連携し、区域やゴミステーションの位置を可視化するデジタルマップを作成し、引継ぎ負担の軽減と地域情報の整理を目的とした。



実施内容・流れ

7～9月に地域で白地図を用い、区割り・班・ゴミステーションの位置を確認・記入した。10月には学生協働支援隊がその内容をもとにデジタルマップへ入力し、全体地図を作成・印刷した。11月以降、印刷した地図を地域へ配布し、内容確認と修正作業を実施。12月までに各地区で確認を進め、1月には区ごとに印刷した地図を地域へ渡し、随時修正を行いながら完成度を高めた。



学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、デジタル機器や地図操作の強みを生かし、紙地図に記載された情報をデジタルマップへ正確に反映する役割を担った。地域やコーディネーターと連携しながら、地図入力、修正対応、縮尺調整や印刷作業を行い、地域が確認しやすい資料づくりを支援した。また、地域の声をもとに修正を重ねることで、実務的なICT活用や地域理解を深める学びの機会ともなった。

今後の展望・課題

今後は地域主体でデジタルマップを更新し、引継ぎ資料として活用していくことが期待される。一方、情報の更新体制や確認方法の継続的な仕組みづくりが課題である。

成果・効果

自治会区域や班、ゴミステーションの位置が可視化され、引継ぎ時の不安軽減につながった。また、紙とデジタルを併用した確認により、地域内で情報を共有する意識が高まり、学生と地域の協働による実践的な成果となった。

東志和地域 地域マップのデジタル化

東志和小学校区住民自治協議会

実施期間：2025年5月～2026年2月



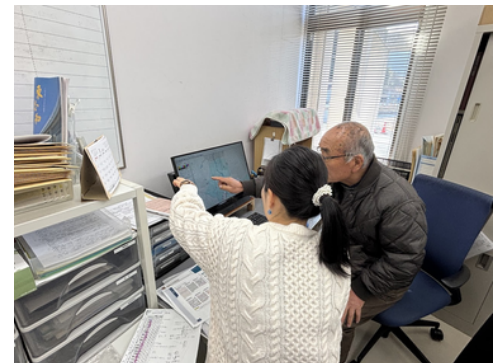
活動の背景・目的

東志和地域では地域情報が更新されず、紙媒体に依存している課題があった。学生協働支援隊が地域での線引き作業の補助とデジタル化を担い、自治会区域や空き家の状況を明確にして地域活動の基盤資料を整備することを目的とした。



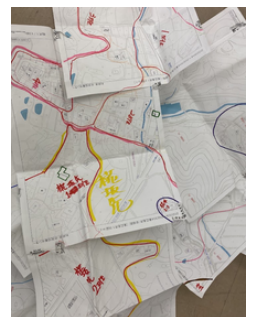
実施内容・流れ

3月に自治協と打ち合わせを行い、5～7月に紙地図を印刷・準備。7月の理事会で説明し、8月4日に学生協働支援隊が自治会長らと区域線引きを実施した。以降、学生がデータ化を進め、随時地域と調整。12月完成を目標に、修正や不足箇所を補いながら作業を継続した。1月に空き家の情報を反映し2月に完成し地域でデータの修正ができるように伝え支援を終えた。



学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、地域での線引き作業の補助と地図情報をデジタル化する役割を担った。紙の地図に記入された自治会ごとの線引きを基にデータ化を行い、地域住民が分かりやすく利用できるよう色分けなど工夫を加えた。また、住民と協力し、不足部分の確認や追加印刷を行いながら柔軟に対応した。住民の知識を可視化することで今後の地域活動に役立つ資料づくりに貢献した。



今後の展望・課題

今後はデータ更新の仕組みを整え、地域で活用・修正できる形にすることが課題である。また空き家情報には個人情報も含まれるため、公開の制約がある。継続的に地域と学生が協力し、活用方法を検討、広げていきたい。

成果・効果

地域住民の知識が地図に反映され、地域内で共有可能な資料となった。空き家の情報や持ち主が変わった住宅が反映され、地域活動の基盤が整理された。今後の防災や見守り活動に活用できる成果が得られた。

高屋西・スマホ講座

高屋西小学校区住民自治協議会

実施期間：2025年3月～7月 イベント実施日：7月17日（木）



活動の背景・目的

高齢者がスマートフォンを所有していても十分に活用できていないという実態がある。高齢者がスマホでできることを増やし、フリースクールに通う高校生の社会教育となる場を提供する。

実施内容・流れ

日時：2025年7月17日（木）10:00～12:00 参加者：12名

場所：高屋西地域センター

内容：LINEの操作方法、スマホの操作する中での疑問点

4月～6月の中で、地域との打ち合わせを重ね実施。

参加者それぞれのペースに合わせてマンツーマンでスマホ講座を行った。



学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、地域との打ち合わせ、フリースクールの高校生との事前打合せを行った。当日は、司会進行、高校生と共に地域の方へスマホの操作方法のレクチャー、高校生が困った時のフォローを行い講座が円滑に進むよう支援した。

今後の展望・課題

参加者一人ひとりのニーズに応じた対応力の向上が求められる。
高校生には、高齢者には伝わりづらい語句の言い換えやわかりやすい説明の工夫など、伝える力の育成が課題である。

成果・効果

「知りたいことがわかった」「困ったことを丁寧に教えてもらった」という声が多かった。
高校生が地域の人2名に教える場面もあり、試行錯誤しながらレクチャーを行っていた。

原・スマホ講座

原自治協議会

実施期間：2025年3月～7月 イベント実施日：7月18日（金）



活動の背景・目的

高齢者がスマートフォンを所有していても十分に活用できていないという実態がある。高齢者がスマホでできることを増やし、フリースクールに通う高校生の社会教育となる場を提供する。



実施内容・流れ

日時：2025年7月18日（金）10:00～12:00 参加者：14名

場所：原地域センター

内容：LINEの操作方法、スマホの操作する中での疑問点

4月～6月の中で、地域との打ち合わせを重ね実施。

参加者それぞれのペースに合わせてマンツーマンでスマホ講座を行った。

学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、地域との打ち合わせ、フリースクールの高校生との事前打合せを行った。当日は、司会進行、高校生と共に地域の方へスマホの操作方法のレクチャー、高校生が困った時のフォローを行い講座が円滑に進むよう支援した。

今後の展望・課題

参加者一人ひとりのニーズに応じた対応力の向上が求められる。
高校生には、高齢者には伝わりづらい語句の言い換えやわかりやすい説明の工夫など、伝える力の育成が課題である。

成果・効果

「わからない事を色々教えて頂き、ありがたかった。楽しくできた」などの感想が多かった。スマホの小さな困りごとを気軽に聞くことができる場を提供することができた。

竹仁・スマホ講座

住民自治協議会 福に富む郷 竹仁

実施期間：2025年2月～7月 イベント実施日：7月1日（火）



活動の背景・目的

高齢者がスマートフォンを所有していても十分に活用できていないという実態がある。高齢者がスマホでできることを増やし、フリースクールに通う高校生の社会教育となる場を提供する。

実施内容・流れ

日時：2025年7月1日（火）10:00～12:00 参加者：7名

場所：竹仁地域センター

内容：LINEの操作方法、スマホの操作する中での疑問点

4月～6月の中で、地域との打ち合わせを重ね実施。

参加者それぞれのペースに合わせてマンツーマンでスマホ講座を行った。



学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、地域との打ち合わせ、フリースクールの高校生との事前打合せを行った。当日は、司会進行、高校生と共に地域の方へスマホの操作方法のレクチャー、高校生が困った時のフォローを行い講座が円滑に進むよう支援した。

今後の展望・課題

参加者一人ひとりのニーズに応じた対応力の向上が求められる。

高校生には、高齢者には伝わりづらい語句の言い換えやわかりやすい説明の工夫など、伝える力の育成が課題である。

成果・効果

地域の方から「高度な内容にも丁寧に対応してもらえた」「若い人と交流できて楽しかった」といった満足の声が寄せられた。高校生は、教える難しさや伝える工夫を学ぶ貴重な経験となり、互いに成長できた意義深い取り組みとなった。

きよさんガーデン プロジェクト

きよさんガーデンプロジェクト

実施期間：2025年4月～2026年1月

イベント実施日：12月7日（日）



● 活動の背景・目的

車いすへの理解を広げたいという当事者の思いから始まった活動である。継続的なイベント開催と活動の広がりを目指し、人手不足の解消と運営の仕組みづくりを目的として学生協働支援隊が関わった。



● 実施内容・流れ

4月から複数回のヒアリングを重ね、団体の課題や目標を整理した。支援の柱を「広報強化」と「継続開催の仕組みづくり」と定め、広報リストの作成、チラシ配布支援、申込フォームや事後アンケートの整備を行った。8月の体験型イベントに参加し理解を深めた上で、12月の本イベントでは運営補助として各ブースを担当。終了後は振り返りを基に、次年度以降も活用できるイベント運営マニュアルの作成を進めた。



● 学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、単発の手伝いではなく「継続できる仕組み」を意識して伴走支援を行った。具体的には、広報先リストの整備、チラシ配布準備会の企画運営、参加申込やアンケートの仕組み化など、団体の負担軽減と再現性向上に取り組んだ。またイベント当日は受付やブース補助、交流企画の実施を通して現場運営を支援。実践を通じて得た気づきを反映し、年間の流れが分かる運営マニュアルへとまとめた。

『みんなふく』2025 開催レポート 作成（2025年12月）

本レポートは、2026年度以降のきよさんガーデンプロジェクトメンバーが、『みんなふく』を開催する際に参照できるよう作成したものです。『みんなふく』2025の準備・運営経験をもとに、開催概要・開催までの準備、次回に活かしたい気づきに関する要点を整理しています。

作成者
1. 2025年度きよさんガーデンプロジェクトメンバー
2. 2025年度学生協働支援隊メンバー（学生協働支援隊は、まちづくりに対する関心や意欲の高い学生を対象に募集し、地域課題の解決に向けて取り組む。学生の成長や学びを促すこと、学生が地域に貢献することを目的に運営しています。）

● 今後の展望・課題

作成したマニュアルを活用し、団体が主体的にイベントを継続開催できる体制づくりを進める。学生との協働も続けながら、地域全体へ理解の輪を広げていく。

● 成果・効果

広報体制と運営手順が整理され、イベントの継続性が高まった。参加者増加にもつながり、車いすへの理解を広げる機会創出に寄与した。



木谷の海をきれいにしよう！ こども夢拾い大集合

市民団体 こども夢拾い

協力：アオイチキュウへ、木谷自治協議会

実施期間：2025年4月～10月 イベント実施日 10/13（月・祝）

活動の背景・目的

「こども夢拾い」は、子どもたちが地域と関わりながらごみ拾いを継続している団体である。今回はその活動をより多くの人に知ってもらえるよう認知度を高めるための親子参加型イベントを開催した。

実施内容・流れ



日時：2025年10月13日（月・祝）9:30～11:30

場所：東広島市安芸津町木谷（赤崎海岸）

内容：学生協働支援隊が作成した環境学習紙芝居／ごみ拾い／マイクロプラスチック採取体験／夢さがし（シーグラス探し）

事前に学生と団体で4回の打ち合わせを重ね、企画の内容の検討や広報の方法、現地の下見、地域との調整を行った。

当日は、安芸津町木谷の赤崎海岸にで、海辺の環境について学びながら清掃活動を行った。

学生協働支援隊の関わり

学生協働支援隊は、企画段階から団体と複数回にわたって打ち合わせを行い、イベントの構成や広報、申し込み管理、現地との調整などに関わった。当日は環境学習の導入として担当し、ごみ拾いの意義や海洋ごみの問題を子どもにも分かりやすく伝える工夫を行った。さらに、受付や誘導、回収補助なども分担し、子どもたちが楽しく安全に参加できるようサポートした。

活動を通して、学生自身も地域課題を身近に感じ、子どもたちや住民と協働する意義を実感する機会となった。

今後の展望・課題

今後は、継続的なイベントの開催と認知度を広める活動展開を目指す。広報体制の強化、運営体制の担い手育成などが引き続きの課題である。

成果・効果

初参加の親子28名が参加し、イベント後も継続的に参加したいという声が寄せられた。ごみ拾いの意義を「楽しい体験」として伝えることができ、活動の認知向上と参加者層の拡大という目的を達成できた。